

学校法人 青山学院
2018年度 事業計画書



Aoyama Gakuin since 1874

目次

「青山学院・新経営宣言」の概要	2
「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」の概要	3

各設置学校及び学院の事業計画

I. AOYAMA VISION を実現するための「4Challenges」	4
1. 世界と未来を拓く教育	4
2. 世界をリードする研究	9
3. 世界が求める社会貢献	10
4. 世界に誇る知的インフラ	13
II. 新経営宣言の実現	15
1. 万代基金の構想	15
2. ブランドロイヤルティの再構築	15
III. その他	15

はじめに

青山学院の挑戦と飛躍 ～二つの宣言を両輪として～

青山学院は、昨年 11 月に「青山学院・新経営宣言」と「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」を発表しました。

「青山学院・新経営宣言」は、青山学院の新たな経営戦略で、経営スローガンでもある“Be the Difference”、「新経営宣言」、「万代基金」、「10 点満点の愛校心」を 4 つの基本戦略として掲げています。

一方「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に発表した AOYAMA VISION を再構成し、ヴィジョン実現のための教育・研究を中心とした各設置学校及び学院の目標・取り組みを示したもので、この 2 つの宣言は、青山学院の成長と発展を推し進めるための“両輪”です。

教学と経営の両輪を明確化したことで、青山学院の挑戦は今後更に加速してまいります。本事業計画書で、2018 年度の各設置学校と学院の取り組みについて概要をご覧ください。

「青山学院・新経営宣言」 ～Be the Difference～

「青山学院・新経営宣言」は、青山学院の経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして、“Be the Difference”は、「わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています（新約聖書 ローマの信徒への手紙 12章6節）」から導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、教職員に“違うことに勇気をもつ”思考と行動を促すものであり、同時に、時代と社会が求める“世界”に羽ばたくサーバント・リーダーの育成に向け、各設置学校と学院が一体となって「一人ひとりの個性を尊重し人格を育む教育」「各設置学校ならではの独自価値の創出」「青山学院ならではのプレミアム価値の提供」を実践することを、校友や在校生・保護者等、青山学院を支えてくださる方々へ示した学院の決意表明でもあります。

より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた万代順四郎氏^{*1}の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代氏の名前を冠した「万代基金^{*2}」を設立します。

この「万代基金」を支えるのは、創立以来有為な人材を輩出してきた青山学院にとって最大の無形資産である 35 万人に及ぶ校友の方々の愛校心であり、在校生や保護者など、青山学院に連なる全ての方々の愛校心です。

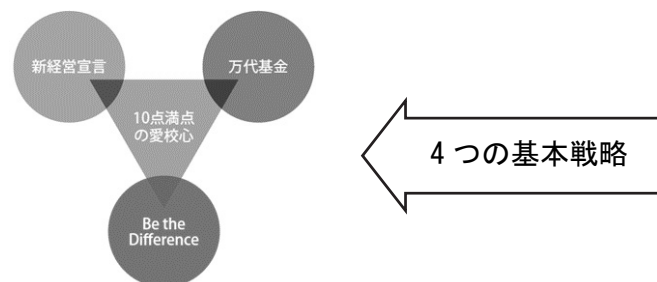
そうした方々に、『私たちは 10 点満点の愛校心を持っている』と自然に語っていただける存在となること。青山学院はその大きな目標に向けて、今後、「校友の輝かしい人生をプロデュースする良きパートナー青山学院校友会」と共に、生涯にわたっての校友の幸せを第一に考える存在となり、校友会、設置学校、法人本部が三位一体となって学院を育て、「10 点満点」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として成長・発展を続けます。

青山学院は校友を決して忘れません。

- *1) 青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創立期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。
- *2) 青山学院発展のために万代氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学金」を改めて「万代基金」と命名し、意欲ある学生への支援を最重要課題としている。

Be the Difference™

“世界は一人ひとりの力で変えられる”



「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～

「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に発表した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というヴィジョンはそのままに、サービス・ラーニングやグローバル化を中心に組みこんできた「3 つのテーマと 7 つのアクション」と「青山学院グローバルアカデミックタウン」「飛躍する学院を支える基盤整備」の柱を、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4Challenges」に再構成したものです。根底にあるグローバル化推進を継続しつつ、「世界の AGU」を目標に掲げる大学の 10 の Action を主軸に、ヴィジョン実現に向けた取り組みを実行していきます。

Vision 2014-2024

すべての人と社会のために 未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは、

リベラルアーツ・
深い専門知識

他者を敬い
違いを受け入れる心

人と社会に
仕える行い

Sincerity
Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

AOYAMA VISION 実現の強い意志を「4 Challenges」に込めて

AOYAMA VISION は、150 周年への更なる飛躍を目指した「青山学院の挑戦」の表明です。

学院の基本使命である「教育」と「研究」、その成果を活かした「社会貢献」、快適かつ最先端の「知的空間の創出」。

これら 4 つを挑戦の柱に据え、「世界」に羽ばたくサーバント・リーダーを育成するべく、数々の Action を展開していきます。

世界と未来を拓く教育

世界をリードする研究

4

Challenges

世界が求める社会貢献

世界に誇る知的インフラ

Mission

建学の精神

青山学院の教育は、
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、
行われる。

教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World.
(聖書 マタイによる福音書 5 章 13-16 節より)

各設置学校及び学院の事業計画

I. AOYAMA VISION を実現するための「4Challenges」

1. 世界と未来を拓く教育

グローバル・プレゼンスの確立【大学】

・海外大学からのインターン生受入れ

理工学部では、学生のグローバル教育と海外大学から本学大学院への入学者受入れ拡大を目的として、タイのチュラロンコン大学とマヒドン大学からのインターン生を受け入れています。インターン生は学部の研究室に約2カ月間滞在して実践を通じた学びを深めており、本学学生のグローバル意識の向上につながっています。2018年度は、受入れの対象を他のアジア諸国や欧米の大学にも広げ、更なる活性化を図ります。

・ダブルディグリー開発事業

本学での学びに加え、海外の大学に留学してダブルディグリーを取得できる制度は、世界を舞台に活躍しようとする学生の学習意欲を大きく向上させます。本学では、世界的評価の高いイギリスのエセックス大学とのダブルディグリープログラムを開発し、世界に羽ばたく学生を支援していきます。

・派遣留学生、私費留学生への奨学金の拡充

前年度に引き続き、本学から世界トップクラスの協定校へ派遣する留学生と本学に入学する私費外国人留学生に対する奨学金を拡充します。グローバルに活躍する意欲と能力のある学生を支援することで、人的ネットワークを形成し、国際理解や大学間交流の活性化につなげます。

・国際交流協定校開拓及び開拓活動基盤の整備事業

海外協定校の更なる充実を図るため、協定候補校を積極的に訪問するとともに、北米、アジア、ヨーロッパの留学フェアへの参加を拡充し、幅広い層への効果的な海外広報活動を展開します。そのために、2017年度に刷新した海外広報活動のツールや、現在タイ、台湾、中国、オーストラリアにある4拠点の海外リエゾン・オフィスの数を拡充し、活動基盤をより強固なものに整備していきます。

多様化する教育ニーズへの対応【大学】

・少人数授業の拡大

グローバル化や AI の進展など将来予測が難しい時代を生き抜く学生を育てるために、また、教員と学生や学生同士が絶え間なく議論する密度の高い授業を行うためにも、これまで以上に学生一人ひとりに向き合うことのできる少人数授業が必要です。語学に限らず少人数授業の拡大を実現するために取り組みを進めます。

・東京外国語大学との協定に基づく教育研究促進及び社会人向け講座「青山アカデメイア」の開講

2017 年 11 月に東京外国語大学と締結した「連携・協力の推進に関する基本協定」に基づき、多言語・多文化を学び国際社会で活躍できる人材養成に向け、両校の教育的資源を最大限に活用しながら多様な取り組みを進めます。2018 年度は、東京外国語大学公開講座の一部を青山キャンパスで実施します。また、本学独自の社会人教育プログラムとして卒業のない大学、「青山アカデメイア」を開設しました。2018 年度に開講する実践的な語学講座や地域政策人材開発講座等を手始めに、専門性の向上を目指す現役層から、経験に知識の磨きをかけるシニア層まで、幅広い層の学びのニーズを満たす講座を展開していきます。

・アカデミックライティングセンターの運営推進

2017 年 11 月、青山キャンパスにアカデミックライティングセンター（AWC）を開設しました。AWC とは、近年先進的な大学で取り組みが始まっている、学生の学術的文章（レポート、論文、発表資料等）執筆を支援するセンターで、本学では「国際的に通用する普遍的なライティング能力の育成」を基本理念に据えています。専門的な研修を受けたチューターが、学部生・大学院生の日本語・英語の学術的文章執筆について個別支援し、学生が自分の力で執筆する能力を養成することを目的としています。2018 年 4 月には相模原キャンパスにも同センターを開設予定です。

ライフプランを見据えた就職支援強化【大学】

・海外インターンシップ推進事業

大学ではグローバルな舞台での活躍を目指す学生のキャリア支援として、海外インターンシップを推進しており、2017 年度は 50 名以上の学生が参加しました。2018 年度は渡航先を 3 カ国 5 都市に拡大し、学生の関心が高い国・地域での多様な職業体験の場を提供することで、更なる派遣学生の増加につなげていきます。

青山キャンパス収容定員増に向けた検討・調査の実施【大学・学院】

女子短期大学の閉学と、それに伴う青山キャンパスにおける大学の収容定員増が学院内で機関決定されたことを踏まえ、2018 年度は、収容定員増に向け、就学キャンパスを青山キャンパスとする新学部設置等の検討と調査を開始します。

女子短期大学・大学の教育連携の強化【女子短期大学】

2019 年度からの女子短期大学の学生募集停止に伴い、その教育力の大学への展開を見据えて、2018 年度は女子短期大学としての教育力を保持しながら、双方の施設や人材等を有効活用できるよう、円滑な段階的移行に向け、大学との連携を強化していきます。具体的には、大学への女子短期大学教室貸出しの拡大や宗教センター・教育メディア運用室・図書館等の移管及び統合に向けた関連部署との調整、ボランティアの共同実施等を行います。

文部科学省スーパーグローバルハイスクールの取り組み：高等部教育全体の中での位置付けの確定と「経験のサイクル化」の取り組み【高等部】

スーパーグローバルハイスクールの取り組みをグローバルウィーク等の機会において全校で共有することで、自らの学びにつなげる「経験のサイクル化」を実現し、新たな「多文化共生」の時代に向けた教育を行う学校を目指します。2018 年度は各プログラムの着実な実行に加え、グローバルプログラムにおける「平和共生ログブック*」及び平和共生論文の位置付けの確認と評価プロセスを確立するとともに、更に新たなプログラムの展開準備を行います。

＊) 様々な教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノート。2～3 年次に向け、一つのテーマを決めて研究論文を書くように構成されている。

電子黒板・タブレット端末等 ICT 機器導入【高等部】

各教室への電子黒板機能付きプロジェクターの設置と Wi-Fi 環境の全校化等、ICT 機器の使用環境整備によって、ICT 機器を活用したアクティブ・ラーニングの展開をサポートします。また、2019 年度以降に生徒一人につき一台のタブレット端末導入を実現するため、2018 年度は各教科で検討プロジェクトを発足し、教材や授業形態の検討や調査を行います。

教科型教室環境における新しい教材、教育ツールの導入【中等部】

2017 年度より導入した「教科センター型教室」では、教科の特徴を備えた教育機器を整備した専用教室や、アクティブ・ラーニングや生徒の作品展示等が可能なメディアスペースを設けて、ハードとソフトの両面から生徒の学力向上を図る教育を行っています。新校舎の利用から 2 年目となる今年度は、各教科のメディアスペースや ICT 教材の活用の更なる可能性を引き続き検討していきます。また、11 月に完成する新礼拝堂、メディアセンター（図書館）についても、その有効的な利用方法を検討し、生徒の多様性と自主性を引き出す学びの展開に結び付けていきます。

新規海外研修プログラムの導入に向けた取り組み【中等部】

現在実施しているオーストラリアホームステイ（夏期）、韓国（梨花女子大付属中）学校訪問、フィリピン訪問の各プログラムに加えて、新たな夏期ホームステイプログラムやターム（短期）留学制度を導入するため、オーストラリア・ニュージーランドにおいて現地調査を行う計画です。国際交流を通して様々な国を深く知り、グローバルなサーバント・リーダー育成を目指します。

グローバル教育の推進、サマープログラムの実施【初等部】

グローバル教育の一環として、CLIL*を取り入れたサマープログラムを導入します。2018 年度は、次年度以降の本格導入に向けたプログラムの構築作業や、プレサマープログラムの実施等準備を進めます。本プログラムでの体験を通じて、児童の英語コミュニケーション能力及び異文化に対する理解度、思考力の向上を目指します。

*) Content and Language Integrated Learning の略。非ネイティブ教員の指導により、母語(日本語)以外の言語(英語)を使って、科目教育と語学教育の両方の習得を目指す教育法

Own Device 化に向けた取り組み【初等部】

将来的な Own Device 化（児童一人につき一台のタブレット端末導入）の実現に向け、2018 年度はその準備段階として、授業でのタブレット端末の積極的な活用や特定クラスでは先行してタブレット端末を利用した自宅学習を行います。これにより文部科学省が提唱する「教育の情報化」に対応する教育環境の整備にとどまらず、グローバル・情報化社会を生きる児童にとって必要なスキルの習得を目指します。

「信頼・喜び・感謝」の気持ちを育む幼児教育【幼稚園】

幼稚園では、園児一人ひとりがそれぞれの個性を大切にしながら、多様性を認め合い、豊かで思いやりのある心を育てる園生活を目指しています。礼拝を大切に生活の中で、様々な遊びや動物たちとの交流、多言語絵本で海外文化に触れる体験等から、「信頼・喜び・感謝」の気持ちを育みます。

自校史教育の推進【学院】

140 年を超える青山学院の歴史を学ぶことは、今を考え、学院の使命を未来に伝えることにもつながります。各設置学校が実施する自校史教育及び自校史教材制作を支援することで、学院全体で自校史教育を推進していきます。

学校間連携の強化【学院】

幼稚園から大学・大学院を擁する青山学院は、一貫校としての特性を活かした教育だけでなく、各設置学校が連携して様々な取り組みを実施しています。また、系属校・提携校との教育連携も引き続き実施していきます。

【ルーティンで実施している設置学校間の連携プログラムの例】

大学・女子短期大学	●単位互換制度
大学・高等部	●高等部生徒による大学授業の履修 ●学問入門講座 ●国際理解・留学準備プログラム
大学・中等部	●放課後の学習サポート
大学・初等部	●小学校一日体験実習
女子短期大学・高等部	●学問入門講座
高等部・中等部	●長期派遣留学生指導・説明会開催
初等部・幼稚園	●一緒に遊ぼう会

校友と学院・在校生による連携強化【学院】

これまで校友と在校生との交流の場として、校友による初等部・中等部・高等部でのキャリア教育や大学・女子短期大学における就職活動支援行事、各学校行事や在校生のスポーツ・文化活動への支援等、数多くの機会が創出されてきました。今後は学院から校友に向けたきめ細やかな情報発信も更に充実させ、校友と学院・在校生の連携をより一層強化していきます。

「近代日本とキリスト教」をテーマとした行事の実施【学院】

2018 年は明治維新から 150 年という大きな節目を迎えます。青山学院では、「近代日本とキリスト教」をテーマにした講演会等の各種行事を実施し、本学から学内外に向けた文化発信を行います。

2. 世界をリードする研究

情報化時代における人文知の役割の模索【大学】

・ シンギュラリティ研究所（仮称）の設立

近年あらゆる分野において AI や IoT の活用が注目され、社会の在り方が最先端技術によって大きく変革しつつあります。本学では、シンギュラリティ後の時代にどう対応し、またどう変化していくべきかを、特に「日本ならではの」の視点に立って、様々な角度から検証し発信し続けることを目的とし、シンギュラリティ研究所（仮称）を設立します。

先端研究への挑戦と次世代研究者の育成【大学】

・ 3 カ国 3 大学国際ネットワークの構築

協定校であるイタリア・ボローニャ大学、韓国・高麗大学との 3 カ国 3 大学の大学間ネットワークを構築し、2018 年度は国際政治・経済・コミュニケーションに関する学際的研究の拠点を作ることを目的とした国際シンポジウムを開催します。このシンポジウムは 3 大学持ち回りで毎年開催する予定で、大学間の更なる連携強化につなげていきます。

・ AI 研究拠点の形成

社会的要請の強い AI 研究の学内における研究基盤強化を目的に、2018 年度に設置予定である理工学部附置先端情報技術研究センター（仮称）内に理工学部を中心とした AI 拠点を形成し、学内展開させます。具体的には、学内の AI に関する研究プロジェクトをハード・ソフトの両面において強力にサポートする体制を整備し、最終的には、理工学部内にとどまらず学内の AI 研究拠点として機能することを目指します。

女子教育の歴史の検証と継承を行う組織の立ち上げ【女子短期大学】

2017 年度より、青山学院の源流の一つである女子教育の歴史を総括し、女子短期大学卒業生をはじめとした多くの女性の生涯教育やエンパワメントへと継承・発展させることを目指して、組織的取り組みを開始しました。2018 年度は女子教育の歴史の検証と継承を行う研究所設立のための準備委員会を立ち上げ、状況調査等の準備を行う中で、構想をより具現化していきます。

3. 世界が求める社会貢献

地球公共精神の涵養と社会を支えるリーダーの育成【大学】

・ サービス・ラーニングパイロット科目の運用スキーム構築

正課として教育学的な裏付けを伴った「サービス・ラーニングパイロット科目」を2019年度に新設するにあたり、サービス活動受入先の調査や教育成果指標の試作・運用などに着手します。また、現行の青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」とボランティアセンターとの協働による科目の再設計を行います。これらを通じて対外的にも評価され得る教育水準へ引き上げるための基礎を固め、サーバント・リーダー育成につながる本学独自の体制づくりを目指します。

・ 相模原キャンパスでのボランティアセンター開設及び活動スタートアップ

2016年10月に開設した青山キャンパスに続き、2018年4月に相模原キャンパススチューデントセンター内にボランティアセンターを開設します。2018年度は、相模原キャンパスにおいても学生へ多様なボランティア活動の機会を提供することで、サーバント・リーダーの育成を促進します。2019年度からは、センターを利便性の高いスペースへ移設し、更なるプログラム内容の充実とボランティア活動の活性化を図ります。また、2019年度より正課であるサービス・ラーニング科目とも連携し、双方にとって効果的な事業の運営を図ります。

・ ボランティアセンター実施プログラムにおける学生・教職員参加機会の拡充

大学では、ボランティアセンターを中心に、AOYAMA VISIONで掲げる“サーバント・リーダー育成”の重要な要素となる多彩なボランティアプログラムを展開し、多くの学生が参加しています。2018年度は、大学の社会的責任（USR）の観点から教職員がボランティアに参加する際のサポートを拡充するとともに、ボランティア経験のない学生や教職員に、活動参加の契機や社会課題に向き合う機会を提供するためのテーマ別や初心者向けのセミナーを開催します。

アートでつながる壁画プロジェクトの実施【女子短期大学】

東日本大震災で被災した人たちと生き、震災を忘れないという姿勢を目に見える形で残すとともに、各設置学校の園児・児童・生徒・学生がオール青山で取り組み、その絆を強めることを目的として、岩手県宮古市との連携協力のもと、復興の象徴である宮古港フェリーターミナルビルに壁画を設置するプロジェクトを2017年度より進めています。宮古市や他の地域の学校も参加し個別に作成したパーツは、組み立てて2つの作品に仕上げ、2018年6月に設置される予定です。

ボランティアからサービス・ラーニングへの展開【学院】

・サービス・ラーニングの推進

各設置学校がそれぞれ取り組んでいるサービス・ラーニングの活動を、学院全体の一貫教育を活かした青山学院らしいサービス・ラーニングとして新たに展開し、組織的に取り組むための準備を進めています。2018年度は設置学校を横断する活動の実績を築くことで学校間の連携を強化し、また他大学等の事例調査や勉強会などを通じて学院全体の意識の方向性を合わせる中で、組織運営していくための課題と解決策を見出し、目標の実現を目指します。

地域・社会に貢献するプログラムの実施【学院】

・パラリンピック・パラスポーツの普及・啓蒙活動支援のための事業

学院全体で展開しているパラリンピック・パラスポーツ推進の取り組みを、2018年度も更に拡大していきます。2017年度は、日本財団パラリンピックサポートセンター主催「あすチャレ！アカデミー*」の開催やパラリンピック競技であるカヌーの競技団体に学生の広報インターンチームを派遣して、その活動を世の中に発信する取り組みを行いました。2018年度はこれらの取り組みに加え、新たな試みとして「青学生向け伴走者育成講習会」や渋谷区と連携した「ウィルチェアラグビーのリアル体験」等を開催する予定です。パラリンピック・パラスポーツへの理解を浸透させ、一人ひとりが人と社会に貢献するサーバント・リーダーとしての資質を養う事業を展開していきます。

＊）パラアスリートと共にスポーツを体験し、リアルな声を聴くことで新たな学びにつなげる体験型授業

地域・社会との連携【各設置学校・学院】

・チャットルーム改革推進【大学】

外国語を通じた国際交流・異文化交流の機会を提供しているチャットルームは、本学の児童・生徒・学生に限らず、職員や校友、渋谷区や相模原市の地域住民等に対象を広げることで参加者も年々増加し、地域貢献・社会貢献としても重要な場となっています。2018年度は更に多様なニーズに対応できるプログラムを展開し、利用者の拡大と満足度の向上を図ります。具体的には、上級者向けセッションの内容について精度を高め、新たな利用者を増やすために広報の拡大や新たなイベントを企画するなど改革を進めていきます。

【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る取り組み例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	●地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援 ●ボランティアセンターによる各種活動（渋谷地域における清掃活動・福祉支援、フィリピン等における国際協力、東北地方における復興支援活動）及びそれらを通じた学生スタッフの学習効果の可視化 ●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 ●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」
女子短期大学	●宮古市、熊本における児童・生徒に対する教育支援活動等被災地支援ボランティア活動 ●現代教養コア科目「共生社会実習」 ●アートでつながる壁画プロジェクト
高等部	●東日本大震災の被災地の学校との交流 ●横浜寿町での炊き出し等支援 ●知的障害者支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流
中等部	●養護老人ホームでの奉仕活動 ●震災被災者支援募金活動 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
初等部	●滋賀県にある止揚学園への短期留学 ●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
幼稚園	●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援

4. 世界に誇る知的インフラ

アカデミック・シティー構想【大学】

・国際学生寮によるグローバル化環境の改善

2017年4月に、本学のグローバル人材育成の要となる、留学生と本学の日本人学生との混住型国際学生寮を武蔵小杉と相模原に開設しました。寮には日本人学生のレジデント・アシスタント（RA）が常駐し、日本文化体験や地域住民との交流等各種イベントやフロアミーティングの企画・運営等を行い、寮生のコミュニケーションを支援しています。開寮2年目にあたる2018年度は、学生が快適な寮生活を送れるよう、様々な入寮期間に対応する部屋や寝具の管理体制を整えていきます。また、日本人学生の入寮者に首都圏外出身の新入生が多いため、全国各地での進学相談会等の機会を活用して国際学生寮の認知度を更に高めていくなど、今後の広報活動も積極的に行っていきます。

中等部校舎の建て替え【中等部】

2017年4月より、教科センター型教室を導入した新本校舎の使用を開始しました。各教科の専用教室やメディアスペースの特徴を最大限に活用した教科教育により、生徒の主体性を引き出し、自主的に学ぶ姿勢を育てます。2018年度中には、第Ⅱ期の工事を行っている新礼拝堂、メディアセンター（図書館）の完成と、第Ⅲ期工事（テニスコート等整備）の開始を予定しています。

保育の設備、環境の改善【幼稚園】

保育の充実と園児の安全確保のため、老朽化した園庭遊具等の修復や新設など、環境改善を図ります。2018年度は、教員による木工コーナーの環境整備・改善プロジェクトを発足し、古い設備を修繕するとともに、ものづくり体験の活動内容の充実に取り組めます。

キャンパス再開発【法人】

・キャンパス再開発・新図書館構想に伴う調査の実施【法人・大学】

総合的アカデミック活動の拠点整備として大学新図書館建設計画を進めており、2018年度はその建設のための与条件整理を行い、基本計画・基本設計を策定します。ラーニングコモンズや、講習会等イベントを実施できる多目的スペース等の十分な確保により、授業以外の時間を図書館で過ごせる滞在型図書館の実現を目指します。

・ 青山学院歴史資料館開設のための調査の実施【法人】

『青山学院 150 年史』編纂事業で得たノウハウや編纂過程で使用した文献等貴重な資料の発展的継承と、学院における自校史教育・研究拠点を構築するために、「青山学院歴史資料館」の開設を目指した検討を進めています。本計画の最終年度となる2018年度は、これまでに実施した国内他大学等の事例調査の結果からベンチマークを作成し、追加調査の実施や専門家へのヒアリングを行い、本学が目指す歴史資料館の構想を提言書にまとめます。またこれと並行して、学院所蔵史資料・文化財へのアクセスの利便性向上、学院の文化コンテンツとしての魅力ある活用と発信、自校史教育・研究の発展等の構想の実現に向けて、取り組みを継続していきます。

魅力的な施設整備【学院】

2017年度には、青山キャンパス7号館1階に、ブックカフェ*とパウダールームの2つの施設を開設しました。快適なキャンパスライフを支援するため、2018年度に相模原キャンパスにもブックカフェを開設するなど、両キャンパスの福利厚生施設の充実に取り組みます。

＊）書籍コーナー（学術関連や洋書等、約2万5千冊を揃える）とカフェコーナー（フェアトレードの有機豆を使用したコーヒー類等を販売）を併設したブックカフェ（愛称 なな Cafe）

「自ら学ぶ力」を育む環境づくり【学院】

・ Aoyama Global Passport System の構築【学院・各設置学校】

幼児教育から高等教育までの系統的な学びの中で、在学生一人ひとりについて、現状の正課の成績等記録のほかに、サービス・ラーニングや留学を含む正課外の学びを記録するシステムの構築を目指し検討を進めます。2018年度は、現行の教育研究システム等を活用した e-ポートフォリオのトライアルを、初等部・中等部において実施します。

・ キャンパスの内外を横断する学修空間の充実とそれに伴う教育・学修の質向上に向けての記録蓄積と効果測定のための調査【学院・大学】

ラーニングコモンズや学修支援システム等、自発的学修を促す効果的な学修環境像の構築を効率的かつ合理的に進めることを目的として、新教育研究システム稼働に伴う各種利用データの蓄積・分析を行いサービスの改善に活かします。2018年度は、新たに教材コンテンツ自作環境（教員自身による映像授業コンテンツの制作等）の提供を開始する予定です。また、昨今の情報セキュリティインシデントを鑑み、教育研究システムにおける信頼性を担保するため、次期教育研究システムの仕様に取り入れる情報セキュリティ対策の検討にも取り組みます。

Ⅱ. 新経営宣言の実現

1. 万代基金の構想【法人】

「万代基金」構想の周知と寄付金大幅増額の実現

万代基金は、青山学院のエンダウメント（寄贈基金）です。ご寄付を募り、「フィナンシャル・エイド（経済的理由により青山学院で学ぶことができない学生をなくす給付型奨学金）」と「教育の質的向上プロジェクト（2024年度までは AOYAMA VISION）」を用途とします。2018年度から新しい方法でのご寄付も受けさせていただきますが、まず、皆様からのご寄付が最後の1円まで、どう使われたかをきちんと、かつ、頻繁にご報告する体制を作ります。また、経済的に恵まれない家庭のお子様や、海外留学に躊躇する学生・生徒や、海外から来られる留学生を経済的に支援する体制を整えていきます。

2. ブランドロイヤルティの再構築【法人】

2018年度は、2017年11月に発表した「青山学院・新経営宣言」の浸透を図るとともに、在校生（保護者）等を対象としたブランドロイヤルティ調査を実施します。宣言内容の浸透については、スローガン“Be the Difference”を配したアイテム製作や、「万代基金」の詳細を記したパンフレットの作成、配付により周知を図ります。ブランドロイヤルティ調査は、全ての設置学校において実施し、今後の戦略や施策に活かせるようデータ分析を行います。

Ⅲ. その他

情報化時代における人文知の役割の模索【大学】

・「青学TV」の運用体制整備及びコンテンツ拡充

2017年9月、本学の“知の発信拠点”としてインターネットTV「青学TV」を開設しました。旬の情報を提供する「今週の青学」、本学の教育・研究を分かりやすく紹介する「アオ・ガク・モン」、本学ゆかりの話題の人を特集した「青アンテナ」等、幅広い層の関心にこたえる動画コンテンツを多数揃え、視聴回数は開設から5カ月経過時点で延べ19万回以上に達しています。2018年度には本格運用を開始し、コンテンツの更なる拡充やアプリの開発を行うとともに、企業との連携等による新たな事業スキームの検討も実施し、本学の戦略的広報並びにブランド価値向上につなげていきます。

知の発展を手助けし、学ぶものに寄り添う事務体制【大学】

・ 職員の英語力向上

大学を中心とした職員の英語力向上の取り組みとして、オンラインによる英会話講座や TOEIC 試験対策、短期の語学留学といった各種プログラムの受講を支援し、実践的英語力を身に付けた職員の育成を継続して行います。

学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーとしての職員の育成【法人】

「サーバント・リーダーの育成」をビジョンに掲げる青山学院では、職員自らもその資質を身に付けて職務に当たることが重要です。全専任事務職員対象の「サーバント・リーダー育成プログラム」では、本学教員による講演、学院功労者の功績や卒業生の活躍といったサーバント・リーダーの紹介等から、サーバント・リーダー像の多様性について理解を深めます。このほか、各種研修を通して、学院の個性を再認識し、青山学院らしい教育、研究、社会貢献の実現に向けて何ができるかを考え、実践できる職員の育成を行っていきます。

学校の国際化を支える職員のグローバル人材の育成【法人】

職員のグローバルセンスを高め、学院全体の国際化に寄与できる人材を育成し、社会の急速なグローバル化に対応していきます。語学研修やグローバル化セミナー等のプログラムを通して、グローバル教育推進の基盤となる職員の育成を目指します。海外大学への出向研修では、新たに欧米圏の大学を派遣先に加え、現地の教育事情の視察と人事交流を行います。

中等部創立 75 周年式典及び記念誌の発行【中等部】

中等部は、2022 年に創立 75 周年を迎えます。その記念事業として式典の開催と記念誌の発行を予定しており、2018 年度には準備委員会を発足します。中等部では 2017 年度より新校舎での学び・生活が始まり、新たな歴史が日々刻まれています。75 年の教育の歩みを辿ることで、今後の更なる飛躍につながる記念事業となるよう企画していきます。

『青山学院 150 年史』編集【学院】

創立 150 周年での年史発行に向けて編纂事業を進めています。青山学院の歴史は、人と社会に貢献し、次世代を育むことを「使命」としたサーバント・リーダーたちの弛まぬ奉仕の歴史でもあります。過去を顧みることによって現状を正しく認識し、未来の構築につなげるとともに、多くの方に学院を知っていただく機会とするために、年史発行に取り組んでいます。2018 年度も学院関係者へのインタビュー等編纂作業を進め、『青山学院 150 年史 資料編第 1 巻』を発行します。

〈補足事項〉

P.4 から P.16 に掲載されている法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に係る計画を【学院】、「経営・管理」に係る計画を【法人】と表記しています。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院 2018年度事業計画書

(問合わせ先) 本部 総合企画部 03(3409)6384

※学院HPからもPDF形式にてご覧いただけます

ホーム > 青山学院の基本情報 > 青山学院のデータ > 財務状況 事業計画書・事業報告書
<http://www.aoyamagakuin.jp/>

2018年3月22日 理事会承認 (2018年4月発行)